

ARIBの動き

マルチメディア移動アクセスフォーラム(MMACフォーラム)
平成21年度定期総会を開催

6月15日に東海大学校友会館「望星の間」(霞が関ビル)において、マルチメディア移動アクセスフォーラム(MMACフォーラム、会長：齊藤忠夫東京大学名誉教授、事務局：電波産業会)の平成21年度定期総会を開催しました。

齊藤会長の開会挨拶に続いて、総務省の竹内芳明移動通信課長から、

「MMACフォーラムは、無線LAN、UWBといった新しいモバイルシステムの規格化・標準化等について、これまで13年にわたり大変重要な活動を展開されてきており、感謝している。特に、新しいシステムの規格化などについては、ARIBと連携する形で本フォーラムが重要な部分を担っており、我が国のモバイル分野の進展に寄与してこられたと理解している。」との来賓挨拶がありました。

その後、総会の議事に入り、平成20年度の事業報告及び収支決算、年会費に係る特別措置、平成21年度の事業計画及び収支予算、並びに役員を選任について審議が行われ、全て提案のとおり承認されました。



MMACフォーラム平成21年度定期総会の様子と
齊藤忠夫会長、竹内芳明移動通信課長 (左から)

地域WiMAX推進協議会シンポジウム(第2回)を開催

6月17日に地域WiMAX普及活動の一環として東京都文京区の(財)全水道会館において、地域WiMAX推進協議会シンポジウム(第2回)を開催しました。

地域WiMAX推進協議会の三友仁志副会長(早稲田大学大学院教授)、安田靖彦顧問(東京大学名誉教授、早稲田大学名誉教授)、総務省の佐々木祐二基幹通信課長からのご挨拶の後、4名の講師からご講演と、5名の協議会委員から活動報告、6社の企業から展示デモ説明がありました。

慶応大学教授の中村修様からは、地域WiMAXアプリケーションの自由な開発のために合同会社を立ち上げた経緯及び、開発設備と研究開発の概略についてのご説明をいただきました。(株)KT Japanの李昌秀様からは、WiBro(韓国版WiMAX)の現状等について映像を交えたご説明をいただきました。(株)嶺南ケーブルネットワークの西野幸二様からは、福井県の敦賀市において取り組んだ地域ニーズに応じたWiMAX事業の内容について、詳細なご説明をいただきました。(株)ハートネットワークの大橋弘明様からは、愛媛県の新居浜市及び西条市において取り組んだ地域ニーズに応じたWiMAX事業の内容について、詳細なご説明をいただきました。

伊藤直人普及促進部会長((株)ハートネットワーク)他からの地域WiMAX推進協議会活動報告では、地域WiMAXのシステム構成やアプリケーション、デジタルデバイス対応、ローミングガイドライン、リテール端末利用についての検討状況が報告されました。

会場は満席で、受講者の皆様には熱心に聴講をいただきました。

また、別会場では東京ケーブルネットワーク(株)様のご提供による地域WiMAX網を使用し、地域WiMAX端末や関連アプリケーション等のデモンストレーションが行われ、実機を前に熱心な意見交換が行われました。



シンポジウム及びデモンストレーション(右上)の様子と講師の中村様、李様、西野様、大橋様(左から)

第158回技術委員会(通信分野)を開催

第158回技術委員会(通信分野)が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成21年6月24日(水) 午後2時00分～3時30分まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 第14回GSC／第7回GRSC会合開催について報告がありました。
- (2) ARIB標準規格及び技術資料のホームページでの提供状況について報告がありました。
- (3) 「ITS無線システムの高度化に関する研究会」報告書について説明がありました。
- (4) 「ICTビジョン懇談会」報告書について説明がありました。
- (5) 3.9世代移動通信システムの導入のための特定基地局の開設計画の認定について説明がありました。
- (6) 情報通信審議会／電波防護指針委員会の審議開始について報告がありました。

電気通信・放送行政の動き

2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステム用 小電力レピータの導入に向けて ～情報通信審議会からの一部答申～

(平成21年6月23日 総務省報道発表)

総務省は、本日、情報通信審議会（会長：大歳 卓麻 日本アイ・ビー・エム株式会社 会長）から、平成18年2月27日付け情報通信審議会諮問第2021号「2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件」のうち「小電力レピータの技術的条件」について一部答申を受けました。

1 背景

広帯域移動無線アクセスシステムについては、ノートPC等の情報端末によるデータ通信利用の需要が見込まれており、屋外のみならず屋内のエリア整備についても期待が寄せられています。

現在、鉄道駅構内、空港内等の公共性が高く、比較的規模の大きな施設内については、基地局の設置によるエリア整備が進められていますが、地下街の個別店舗等の比較的規模の小さい施設内、宅内及び鉄道・バスの車両

内等に利用エリアを拡大するためには、携帯電話やPHSと同様に、安価かつ迅速に設置が可能な小電力レピータを導入することが有効であると考えられています。

このような背景を踏まえ、平成20年12月11日より、情報通信審議会において「2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステムの技術的条件」のうち「小電力レピータの技術的条件」について審議が開始され、本日、その一部答申を受けました。

2 答申の概要

一部答申の概要は、別表(BWA用小電力レピータの主な技術的条件)のとおりです。

3 今後の予定

総務省では、本一部答申を踏まえ、2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステム用小電力レピータの導入に向け、技術基準の策定等を進めていく予定です。

BWA用小電力レピータの主な技術的条件

BWA用小電力レピータの主な技術的条件

別表

中継方式	モバイルWiMAX用小電力レピータ				次世代PHS用小電力レピータ			
	非再生		再生		非再生		再生	
対向方向	基地局	端末	基地局	端末	基地局	端末	基地局	端末
キャリア数	対基地局送信及び対端末送信のキャリア合わせて最大3キャリア(注1)							
送信出力	200mW以下(注2)				200mW以下		200mW/Carrier以下	
空中線利得	2 dBi以下				4 dBi以下			
スプリアス領域における不要発射の強度	モバイルWiMAX端末と同等				次世代PHS端末と同等			
帯域外利得	割当周波数帯域端から ・ 5 MHz離れた周波数にて利得35dB以下 ・ 10MHz離れた周波数にて利得20dB以下 ・ 40MHz離れた周波数にて利得0 dB以下							
その他の具備すべき機能	発振防止機能：送信出力を一定値以下に抑制する機能、発振が生じないようにレピータの利得を抑制する機能又は異常な送信を停止する機能 所望の電波のみを中継するための機能 ：自システムの基地局又は端末からの通信のみを中継する機能又は遠隔制御によりBWA用小電力レピータの動作を停止・起動させる機能							

(注1)モバイルWiMAX及び次世代PHSは30MHzに10MHzシステムをそれぞれ導入している状況にあることから、基地局対向器及び端末対向器が同時に発射するキャリア数は最大3キャリアと規定

(注2)対基地局送信及び対端末送信を合わせた全キャリアの総電力

なお、詳細は< http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02kiban14_000020.html >をご覧ください。

どんよりとした梅雨空は、気分まで憂鬱にさせます。ちなみに、この季節の前半にみられるあまり強くない雨が長く続くような梅雨を「陰性の梅雨」、後半の雨が降るときは短期間に大量に降り、降らないときは晴天が現れたりするような梅雨を「陽性の梅雨」、と表現するのだそうです。早く梅雨明けし、あのすっきりと晴れた夏らしい青空の下で、気分爽快といきたいですね。

(S.K)

[ページの先頭に戻る](#) ▲